2022年（令和4年）
11月号
赤目まちづくり委員会・市民センター

赤目まちづくり通信

発行／赤目まちづくり委員会（赤目市民センター）　〒518-0465名張市赤目町丈六238-1　E-mail：akame-ko@emachi-nabari.jp　TEL＆FAX：63－0329

岡田・有馬各役員あいさつ・抱負

まちづくり委員会　書記　岡田英昭

この度、まちづくり委員会の書記をお引き受けしました赤目ヶ丘区の岡田英昭（ おかだ　ひであき ）と申します。新たに『赤目まちづくり』に参加させていただくことになり身の引き締まる思いです。

自然に恵まれた土地で子育てするために大阪より名張市へと移り住みました。お陰様で子供達は自然豊かな赤目の地で元気に育ってくれました。

しかし、30年間赤目の地に住みながら地域のために役立つ事もせず過ごしてしまい、赤目ヶ丘の前期区長となった事をきっかけに地域の行事に参加等することの必要性・重要性を学びました。

私は、赤目の将来を担う子供たちや高齢者の方々等全ての世代に寄り添い、皆様が安心して暮らせるような明るく楽しい『赤目のまちづくり』のため、例え少しでもお役に立てることが出来れば幸いであると考え活動を始めております。

何とぞよろしくお願い申し上げます。

まちづくり委員会　会計　有馬聖子

本年度より赤目まちづくり委員会会計を務めさせて頂いております有馬聖子（ありま　せいこ）です。

小学校入学前から美旗で育ち、赤目に嫁ぎ20年となりました。子育て中ご縁があり赤目青年会に参加させて頂き、この度赤目まちづくりにも先輩方のご指導のもと携わらせていただく事になりました。

赤目四十八滝をはじめ、豊かな自然と観光資源、美味しいお米や地酒など魅力あふれる赤目のことを自身がもっとよく知り、盛り上げ、発信していきたいです。また担当部会の健康福祉部会では、コロナ禍でなかなか思うように行事が出来ていませんが、子供から高齢者皆様の健康を願い、少しでも沢山の方と触れ合う機会を持てればと楽しみにしております。

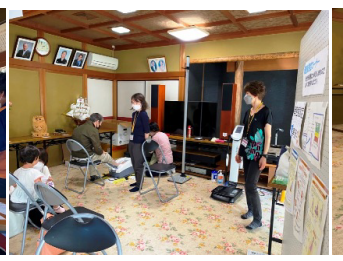
まちづくり行事再開の際は、皆様方のご参加、ご支援ご協力を何とぞよろしくお願い致します。

福井県大野市より視察

10月6日福井県大野市役所・地域づくり部並びに区長連合会の皆さん16名の方が、赤目市民センターに来訪されました。
当日は、市の地域経営室より中木屋室長・地域包括より2名、赤目まちづくりより藤村会長を始め9名が参加。各自己紹介の後、森岡副会長より赤目まちづくりの紹介があり、現状、運営の仕方、若者への継承など町づくり運営の課題などを真剣に質疑された。

集いのフェスタ星川開催

10月15日（ 土 ）星川区（ 森岡区長 ）で、「集いのフェスタ星川」を星川集会所で開催。作品展示・ゲーム、モノ作り体験、健康測定（インボディー）など盛りだくさんの催しでした。
「久々に楽しい一日を過ごしました。」（ 参加者の声 ）



赤目市民センターまつり開催

10月29日（ 土 ）～10月31日（ 月 ）の3日間市民センターまつりを開催。29日初日には、隠学歴史講座「赤目の今と昔」を市立図書館・山口館長を迎え講演。一日平均100名の方が来訪。北川市長・西山教育長・中森県会議員を始め、多くの来賓の参加も頂き、今年も展示のみの開催でしたが、盛況な催しとなりました。
出展頂いた方・参加頂いた多くの方、並びにご協力頂いた皆様・団体の方に、お礼申し上げます。「大変ありがとうございました。」

みんなの料理教室開催

10月18日（ 火 ）赤目市民センター調理室で、講師に近鉄ガスの料理教室を担当されている秦佐和子先生を迎えて、楽しい「みんなの料理教室」を開催。
栗・サンマ・ジャガイモ・さつまいもを使った「お楽しみ和弁当」を調理。皆さん手慣れたもので、楽しく・美味しく出来上がりました。

赤目歴史散策　忍者の里「伊賀竜口・大和龍口」

10月16日（ 日 ）「忍者の里竜口」を散策。今年3月に開設された、トレッキングコースで、伊賀流忍者の開祖、百地三太夫（ももち・さんだゆう）一族の砦（とりで）竜口城址・城山城址（ 標高420m）等を見学。山越えの歴史に夢馳せる忍者の住む山里でした。

９月よりＡ4(白黒)コピー５円に。詳細は、市民センターまで。

名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋（ 無料交付 ）
特大 45 リットル 10 枚 480 円・大 30 リットル 10 枚 300 円・中 20 リットル 10 枚 180 円・小 10 リットル 10 枚 80 円
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり 30 枚以内。

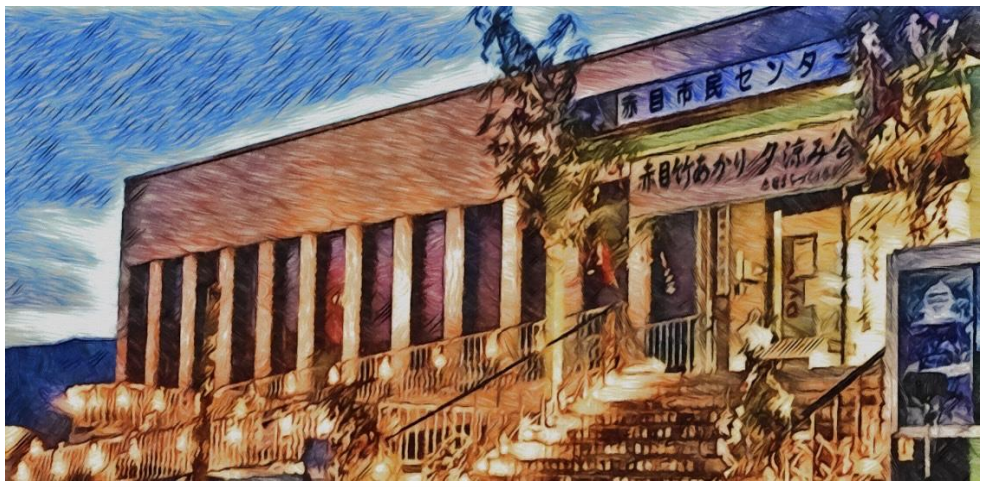
赤目まちづくり委員会
赤目市民センター
ホームページ

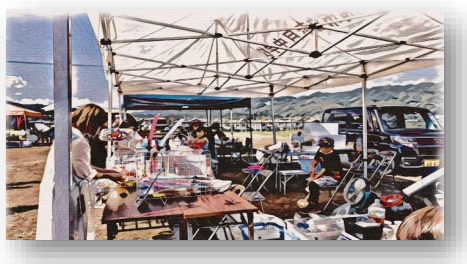
赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話で左の QR コードを読み取って下さい。

子供も大人も、参加自由

赤目秋まつり

地域の文化や伝統を通して、地元の魅力を再発見・赤目の文化伝承を図る
「赤目秋まつり」を企画しました。ぜひともご家族で参加ください。





●日　時　　令和４年11月20日(日)　午前11時～18時

●場　所　　赤目市民センター・駐車場

●催し物　　各サークル演奏・赤目町獅子神楽・ゲーム・出店など。

※駐車場は、極力乗り合せの上、錦生赤目小学校・赤目保育園へ。参加者全員に、景品配布。

主催　赤目まちづくり委員会　赤目秋まつり実行委員会

11月7日～12月4日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
11/7	8	9 ふれあいサロン	10	11 市民センター 消火・避難訓練	12	13 ガン検診
14	15	16 忍たま広場	17	18	19 名張市防災訓練	20 赤目秋まつり
21	22	23 勤労感謝の日 ふれあいサロン 休　止	24	25	26	27
28	29 館外学習「近江商人と永源寺」	30	12/1	2	3	4 和凧づくり

＜注意＞11 月に予定していました「和凧づくり」12/4・「館外学習会」11/29 に、実施となります。

12月の行事予定

★12/14(水) ふれあいサロン
★12/15(木) サンサンカレー
★12/21(水) 忍たま広場
★12/28(水) ふれあいサロン
★12/29(木) 赤目年末警戒

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、３密（密集・密接・密閉）を避けて運営しています。
しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合が有りますので、ご注意お願い致します。

------11／19(土)の名張市防災訓練について------

防災訓練の二次避難所（錦生赤目小学校）での訓練は自主参加です。訓練内容は、三角巾を使った応急手当、簡易担架の作製・搬送方法。参加される方は、上履き（スリッパ可）、下靴を入れる袋、風呂敷、筆記用具をご持参ください。

Vol.34　新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」（各区・地域の名所・名品を募集しています。）

「赤目のむかし話　Part.4」

今回のむかし話は、「伊賀一ノ井の松明講」の二月堂松明調進のいわれについて。

道観長者（一ノ井・香落峡）

今から八百年ほど昔、赤目町一ノ井に伊賀の国で一番の大金持ち「道観長者」が豪壮な館を構えて住んでいた。九つの郷を治め、農民を虫けらのように働かせ、自分は酒と女におぼれ、それはたいへんな乱れようだった。

長者には三男一女があったが、長男の「左門」と二男の「梅若」は病死。奥方の「小満」は体がくさる病気にかかってしまった。このため一族は村外追放を御上から命ぜられ、人里離れた香落峡の八幡山のふもとに移り住み「八幡長者」と呼ばれるようになった。

三男の「小太郎」はその頃十三歳。母の病気を治すために「熊野権現」や「伊勢若宮八幡」へ月参りを続け、長者もそのうち過去を深く反省するようになった。そしてある日、長者は自分の財産を世のために使おうと決心。まず、島ヶ原の広国寺を再建、正月堂と名づけ、平家に焼かれた奈良・東大寺の復興に努めた。この頃、若狭の「南無観長者」と出合い、意気投合。二月堂を再建し、開基の「実忠（じっちゅう）上人」にならってその檀家に入り「わが私有地を二月堂に寄進し、松明を毎年二月堂の修二会（しゅにえ）に納めるのだ」の遺言を残し、入寂（僧が死ぬこと）してしまった。

残された小太郎らが寂しく暮らしていたある日、盗っ人の「お竜」が財宝目当てに忍び込み、小満や姉の「時姫」らを次々に殺してしまい、なお、小太郎に迫った。「欲しがっている宝物はあの高い岩山に埋めてあります。案内しましょう。」

小太郎は逆にお竜をだまし、目もくらむ断崖絶壁の山に連れていった。欲に目がくらんで、財宝のことばかりを考えていたお竜を突き落とし、母や姉ら家族のかたきを討った。その岩山は「小太郎の賊落とし」と呼ばれ、いつしか「小太郎落とし」に変わった。

小太郎はその後、一族をとむらうために岩山にお経を埋め、奈良へ出て「聖玄」という立派なお坊さんになったと伝えられている。奈良のお水とりの時、一ノ井では松明を作り、二月堂に奉納しているが、これは道観長者の遺言で始められたと言われている。「伊賀一ノ井の松明送りと伝説」から。

伊賀一ノ井松明講に受け継がれた松明調進も復興してから、今年で７７５年を迎える。道観長者の遺言・悲願が形となって後世に、名張市の「無形民俗文化財」として、その想いの灯し火が末永く受け継がれていって欲しいものです。

道観塚の碑

お水取り「修二会」

小太郎岩

松明づくり

松明調進